

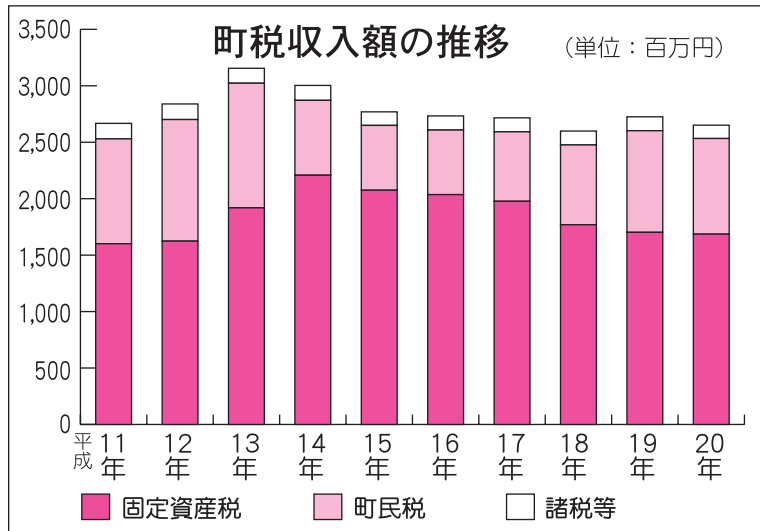
議会の窓

先の12月定例会でも、町税減収への対応が課題となりました。町の事業や町民サービスを支える税収入の減少は、私たちの生活に直接影響を及ぼす大きな問題です。そこで今回は過去10年間の税収の推移を追ってみました。

～ 厳しさ増す町の台所 ～

町税は、平成13年度(31億5,500万円)をピークに減少傾向にあります。税目別に見ると、固定資産税は平成14年度(22億800万円)に法人の設備投資により増加したものの、長引く景気低迷による土地価格の下落や家屋新築の減少等により、減少傾向に転じています。

町民税は平成13年度(11億400万円)から法人の業績不振により平成14年度(6億6,300万円)に大きく減少しましたが、平成17年度から19年度(9億円)に所得税の改正や国税から地方税への税源移譲により増加に転じました。しかし、米サブプライムローンの破たんを契機に世界的な金融不安から、法人、個人の収益環境の悪化や雇用不安の状況が続き、平成20年度以降も減少傾向が続くと予想されます。



町財務課の試算によると、税収入は当面毎年1億円ずつ減額となる見込みです。一般質問の町長答弁にあったように、来年度はこの1億円を職員の人件費と事業の精査、補助金の見直し等で賄ったとしても限界があり、今後のやり繰りは大きな課題です。少なくなる税収入を有効に活かすために、町民一人ひとりが自分のできるところから協力していくことも必要なことではないでしょうか。

～表紙の写真から～

富士見町と近隣市町村の若者で組織する森林整備「緑化創造舎」は、10年かかって7人の仲間になりました。

県の補助金などを利用し、地主に負担をかけないでできる「森林の整備」を目指しています。手を入れた森林が、50年後、100年後、新たな価値を生み出すことを願い、仕事にいきいきと取り組むメンバーたちです。

■ 議会広報編集委員会
 編集委員長 エンジエル千代子
 委員長 小名織
 副委員長 池取田一武
 委員 夫一雄

今回の特集では行政の仕事の流れを追ってみました。毎年3月に次年度の事業が予算化され、議案として提出され採決される。昨年の12月議会では、町のホームページを新しくするための予算が否決された。新町長を迎え、議会もエック機関としての役割の重さを再認識しなければならぬ。息詰るような経済不況の中、しかし、町長の言う「よき者の目」が鍵になるのではないかと「地域再生」が叫ばれて久しく、全国的にも成功例がある。その中のいくつかは共通して言えるのは「よき者の目」に触発され、地元住民が地域の宝に気づき、誇りと自信を持つところから始まるという点だ。地元神社での年始の参賀式、どんとやき…その一つ一つがよき者の目には新鮮で宝物に映る。御柱はまさしく諏訪文化の宝だ。今年一年間「地域のいいところ探し」をしてはどうか。(エンジェル千代子)

編集後記